

---

# 紅い桜

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅い桜

### 【Nコード】

N5175S

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

それは、それは。桜の綺麗なある日の出来事でした。俺の彼女は、桜のように美しく散ったのです。

「う、うわあああああああああ!？」  
俺の彼女は、夢くそして美しくあの日に、  
散った。

「学。お花見行こうよ」

彼女、カヤは毎年そんな殺し文句で俺を花見に誘う。  
付き合う前から何年も続いてきた。

そして、俺の返事はいつも

「勿論だ」

だった。

「リンゴ飴食べたな。買って?」

「構わないぜ。じゃあ、俺にも何か買ってくれ」

「んー、何がいい?」

「リンゴ飴」

こんな、毎春、毎春の会話さえ楽しかった。

あの日までは。

花見当日

今日は珍しく一日中花見らしかった。

「暇だろ、それは」

「いいの。だって、今年で付き合ってから五周年。ちよつと贅沢しないと」

俺はお前の笑顔だけで十分なのに。

「そっか」

そんな恥ずかしい言葉は心の中に閉じておく。

高校卒業でもしたら、結婚の申し込みでも行こうかな……。などと、考えているうちにお花見会場についた。

お互いにリンゴ飴を買い合い、見晴らしのいい高台へ登った。

ここは、公園の桜を一望できる秘密スポット。

……。……といっても他にもカップルはいるのだが。

「うひゃあ、今年も綺麗だね」

お前の方が綺麗だぞ、

などとまたも恥ずかしい言葉を心で抑えつつ

「そうだな」

と頷く。

「あたし、この淡いピンクが好き。

その中に違う種類の濃いピンクの桜があってもっと綺麗」  
満面の笑み。

夏には、ひまわり畑にでも行こうかと思う。

そうだ、こいつは昔から綺麗なもの、花が好きだ。

「えへへ。あたし、花大好き。

ねえ、夏にはひまわり見に行こう」

思考が同じだった。ちよつと嬉しかったり。

帰る寸前、  
屋台を練り歩きつつ帰った。

「きゃああああ」と言う悲鳴。  
振り向くと。

桜。

否、桜はあんなに赤くない。

「カヤ・・・・・・・・・・？」

倒れ込んでいた。

赤い。真っ赤。

「カ・・・・・・・・ヤ？」

カヤの近くにはナイフを振り回している男がいた。

「おい！カヤ！？カヤ！！！」

「・・・・・・・・・・」

声がかすれてて聞き取れない！

「う・・・・・・・・」

「・・・・・・・・・・」

「うわああああああああ！！！」

男は、春の陽気でうかれ、通り魔殺人を過去多数おこなっていたらしい。

カヤは

「残念ですが、こちらで精一杯の手は打ちました。」  
と、医師。

「綿内カヤさんは」

俺はそれ以上耳に入らなかった。

「カヤ・・・・・・・・」

カヤがない学校。

何処と無く寂しかった。

「新野巻！おい、学！」

「え？あー、なんすか」

「オレだよ！お前の親友」

「あー、うん、で、何」

「ひでえ！最近元気ねえじゃん？

どしたの？まだカヤちゃんのこと？」

るせえよ、と俺は無理矢理話を寸断。

そして、屋上へと上がった。

そこでもまた、親友の声が。

校庭からだ。

「新野巻い！校門見ろ！」

「うん？」

「！」

そこには。

桜のような微笑みをしてくれる、  
カヤがいた。

「学ー！ただいまー！」

「ゆ、夢か何かだよ」

「カヤちゃんはない！」

「リハビリを終えて帰ってきたんだよー！」  
「・・・・・・・・・・・・・・・・ツ！」

『綿内カヤさんは  
』

「そっか、話は、最後まで、きかねえとな」

『綿内カヤさんは、外傷こそ酷かったものの、  
回復出来る道に進んでいます。』

「おかえり。カヤ」

「ただいま。また、お花見行こうね」

桜を、見に。

（後書き）

今回は彼女ちゃん死ななかった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5175s/>

---

紅い桜

2011年10月3日11時20分発行